

令和3年度 臨時監事監査（教育）

監査報告書

監事計画に挙げた3つの重点項目のうち「教育」について、対象部門を選定し、書面調査と面談によって監査を実施した。監査の概要と監事意見は以下のとおりである。

【テーマ】 コロナ禍での教育の現状とコロナ禍終息後の教育の在り方について

I. 監査項目と主な監査内容

昨年度は、臨時監査項目として「遠隔授業及びオンライン会議への取り組み」をテーマとして取り上げた。この調査は、はからずも、昨年2月から始まったコロナウイルスの猛威の下での、否応なく直面させられた理系主要部局に於けるオンライン授業の取り組みについて、その苦勞・工夫の様子を伺う機会となった。

本年度も、コロナウイルスの影響は継続しており、当初予定されていた4月からの全面的な対面授業再開も延期を余儀なくされた。昨年度は、むしろ緊急事態として始めざるを得なかった全面オンライン授業であったが、後期には、一部対面授業も復活し、一部オンライン授業も活用された。この一年の経験を踏まえ、オンライン授業の長所・短所も見えてきたことと思われる。こうした経験の中での授業の工夫と改善、更には将来的な展望について、昨年と対比して文系を加えて、これらの課題への取り組み状況について調査を行った。

II. 監査の方法

1 監査の方法

既存資料等により書面調査を行うとともに、予め通知した次の質問項目について部局長及び関係教職員との質疑応答による監査を実施した。

- (1) 新型コロナウイルス感染防止のために始めたこれまでの遠隔授業及び対面授業の取り組み状況（困った点、工夫した点など。）
- (2) 遠隔授業及び対面授業の昨年度の参加実績
- (3) 遠隔授業及び対面授業を実施してこれまでに明らかになった課題
- (4) コロナ禍での学生のメンタルケア
- (5) オンラインと対面の双方を組み合わせたコロナ禍終息後の新しい授業への展望

2 監査の実施先

医学研究科・医学部	9月15日（水）
文学研究科・文学部	9月15日（水）
教育学研究科・教育学部	9月22日（水）
薬学研究科・薬学部	9月24日（金）

III. 監査結果

以下は監査における各部局との質疑応答に基づくものである。これに対する監事意見を最後に述べる。

1 新型コロナウイルス感染防止のために始めたこれまでの遠隔授業及び対面授業の取り組み状況（困った点、工夫した点など。）

【医学研究科・医学部】

◆医学科

- ① 医学部医学科の専門科目については、全科目必修科目であり、かつ全科目集中講義形式で実施している。全学においては、令和2年度当初は1か月間全面休講とし、その間にオンライン授業の準備を整え、5月から開始としていたが、医学科のカリキュラムの特性として、1か月間休講とすると、この時期が開講期間となる科目はまったく開講できないままになるという問題があった。そこで、先発してコロナ禍における授業実施体制を整えた上で大学本部に授業実施を申し入れ、許可を得て、4月より人間健康科学科も含めてオンライン授業を開始した。
- ② 実習科目についてはオンラインでの実施は困難であり学習効果を最大限に得られない恐れがあること、講義科目についても例えば「法医学」のようにオンライン上で配信するのは不適切な資料がある科目等どうしても遠隔授業に不適な科目がある、また成績評価にあたっては厳格に知識の修得を促すためには対面形式の試験実施が必要であるということから、6月初旬に、全学部長・研究科長連名での要望書と、医学部独自の要望書を提出し、早期の対面授業再開を働きかけ、9月の秋学期より対面での実施を再開した。
- ③ 令和2年度当初、遠隔授業を開始するにあたっては、新入生・在学生にPCや動画視聴ソフト（Zoom）の取り扱いに慣れていない・苦手な学生が多い、自宅にWi-Fiネットワーク環境がなく長時間の動画視聴が困難な学生が少なくなかった。
→医療情報企画部、医学教育・国際化推進センターの協力を得て、新入生・在学生の希望者に対してPC・Zoomの取り扱い説明会を実施。
→学内Wi-Fiが入る講義室を開放して遠隔授業の視聴環境を提供。
- ④ 対面授業再開後も、その授業をZoomにて同時配信し、その録画動画を学習支援ポータルサイト（PandA）に掲載して学生の復習を支援。
→コロナ禍前から授業資料（PDF・PPT）はPandAに掲載して配付している。
→授業動画の提供は、学生の復習を促し、学習効果を高める意図。
→上回生にも動画視聴を認めて、復習を可能とした。
- ⑤ 実習科目を対面で実施するにあたっては、密を避ける対策。
→学生を2グループ以上に分けて、時間・場所を分けて実施。

→サージカルマスク着用必須、アイシールドを貸与。

⑥ 臨床実習の対面実施中止・オンライン実習への切り替えに対する学習支援。

→Procedures Consult（臨床実習学習ソフト）、Visible Body（解剖実習学習ソフト）を購入。

→CareNetTV（医学生向け動画配信サービス）無料提供の利用。

⑦ 遠隔授業を実施する教員に対する支援。

→医学教育・国際化推進センターがPandA・Zoom使用説明会を複数回、各学期開始前に開催。

→授業実施期間中も医学教育・国際化推進センターがサポート。

京大医学部 専門科目講義 オンライン化チュートリアル

2020年4月17日版

医学教育・国際化推進センター

山本憲

講義のオンライン化の方法

1. PDF講義資料をPandAアップロードし、講義なし、自習と質疑応答の機会のみ確保する方法
 2. パワーポイント(Power Point, PPT)のスライドにナレーションを吹き込み、スライド表示タイミングを記録して、mp4エクスポートしたファイルをPandAオンデマンドサーバから配信する
 3. Zoom会議室を設定し、PPTスライド画面を共有する方法で通常と同様にリアルタイム配信講義を実施する。この時の講義動画を録画しておくことで、後からオンデマンド配信も可能になる
- 上記の3通りの方法を事前に計画していましたが、3の方法が4月講義で非常にうまくいっていますので、こちらの方法を推奨します。1.や2の方法を採用された講義も4月にありました。



◆大学院（医学）

令和 2 年度前期は対面授業は原則的に実施せず、遠隔授業を実施した。学生は基本的に自宅からの受講となったが、密にならない範囲で研究室及びラウンジ・開放された講義室での聴講も可能とした。

令和 2 年度後期に、対面授業をすることが審査の上、認められたため、担当教員の申出により審査の上、対面授業・ハイブリッド授業とする科目があった。

令和 3 年度前期開始当初は、京大では原則対面授業が開始したが、学生に医療関係者が多く見込まれる科目等は、遠隔授業を継続した。

◆人間健康科学科、人間健康科学系専攻

①遠隔授業の取組み

- ・全学でライセンス契約をした Zoom および既存の授業支援システム（PandA）を使用して、オンライン授業を実施。

- ・大学独自 Wi-Fi (KUINS-Air) に接続可能な講義室を開放。
- ・構内の情報処理端末室の利用時間の延長。
- ・ハイブリッド講義にも対応出来るように講義室の機器類の更新、マイクスピーカの導入
- ・講義動画や資料を学習支援システム(PandA)に掲載して復習の促進。
- ・教員間でオンライン授業実施方法に関する情報交換を実施。

②対面授業での取組み

- ・学科・専攻内で対面授業実施時のガイドラインを策定。
- ・講義室や実習室に消毒液やアクリル板等を設置。
- ・体調不良時の大学への連絡フローを整備。

【文学研究科・文学部】

1-1. 学部・大学院共通

<工夫した点>

- ・オンライン授業サポート用に、ノートパソコン (7 台)、ルーター (15 台) を購入し、環境が整わない学生等へ貸し出しできるようにした。
- ・小・中規模教室で、簡単にオンライン授業(ハイフレックス授業)が行えるように、iPad (20 台)、貸出用タブレットスタンド (20 台) 等を購入し、授業の際に非常勤講師に貸し出しできるようにした。各教室では無線 LAN が使用できるが、有線 LAN も使用できるように環境を整備した。
- ・オンライン授業を実施するにあたり、2 回生に対してオンライン受講ガイダンスを実施し、オンライン授業を受講できる環境が整っているか確認した。新入生には、新入生ガイダンスで実施した。
- ・各教室にアクリル板、常設用タブレットスタンド、消毒液、ウェットティッシュ等を設置し、週に 1~2 度点検し補充した。また、注意事項等の掲示や座席番号を貼付した。
- ・オンライン授業(ハイフレックス授業)に不向きな大教室の不備は、文学では令和 3 年 4 月までに、喜多教授らの工夫により、簡便な双方向型システムを導入した。
- ・オンライン授業サポート窓口を設けた。これは、教員が授業を実施するためのサポートであり、技術補佐員を雇用し、窓口業務に当たってもらった。
- ・昨年の後期以来、学生の時間割にオンラインと対面が並存する状況が生まれたため、学生の自習スペースを工夫して設置した。具体的には、令和 2 年度には大教室 3 室を自習室として設置し、各教室に OA を雇用して自習室の入退室を管理した。
- ・令和 3 年度前期は、対面授業が復活したが、一部オンライン授業も平行していたため、学生がオンライン授業を受講できる自習スペースをより多く確保する必要があった。文学部校舎の元学生談話室や 1, 2 階の踊り場にあったカフェテーブルを

デスクに変更、発言可能なスペースも別に設けるなどの工夫を行った。総合研究2号館の文学部100周年記念談話室も、デスクを設置したが、これは、図らずも他部局の学生の利用にも多く活用される自習スペースとなっている。

<困った点>

- ・非常勤講師がオンライン授業を実施するためには、授業支援システム「PandA」が使えるようになるためのアカウントを取得しなければならないが、その対応等に苦慮した。また、アカウント取得後も、授業支援システム「PandA」と教務情報システム「KULASIS」という2つのシステムを混同されることが多く、その対応にも苦慮した。現状では「KULASIS」と「PandA」が有機的連携を保てていないため、学内の教員でも使い方に混乱を来すことがあり、ましてや学外の非常勤講師の教員に教務掛から説明をして使っていただくという状況はいささか困難を伴うものであった。
- ・感染状況により本学の活動レベルが変更するので、学期の途中で授業形態が変更することもあったため、教員および学生への対応に苦慮した。授業を担当する側、あるいは授業に出る学生側としても、授業形態の変更は、移動手段、あるいは授業の内容も含め、変更を強いられるわけで、できるだけ早い段階での周知が必要になるわけだが、そもそも周知する手段が、学生には KULASIS しかないことなど、周知には苦慮したこととともに、周知後には一定数の「疑問・質問」が教務掛に寄せられることもあり、対応に時間を割くことになった。
- ・ほぼ全面的にリモート授業になった時期に、複数の父兄から、「なぜ対面授業を行わないのか」「授業料も満額支払っているのに、学生らしい生活も送っていないし、小・中・高も社会も通常に動いているのに、大学だけ高い授業料を支払っているにもかかわらず、何も対応しないのはなにごとか」という厳しい意見が寄せられ、教務掛に延々と苦情電話をするなど、教務が疲弊した時期があった。
- ・種々の理由により、対面授業に出たくない学生、さらに、対面授業を行いたくない教員（特に非常勤講師）への対応に苦慮した。

1-2. 学部教育

<工夫した点>

- ・学部一回生の学修サポートとして、10月には、学部長・副学部長による対面での特別講義（オムニバス式の一回生向け入門講座）を実施、11月～1月には、有志教員を交えた対面でのオムニバス式入門講座（計7回）を異なる講時で2グループ組織し、自由選択科目（1単位）として受講可能な体制をつくり、一回生が学部に関心むきかけとなるよう、取り組んだ。

<困った点>

- ・学部一回生の学修・生活面のサポートに苦慮した。

1-3. 大学院教育

文学研究科の特徴である少人数による演習授業は、比較的スムーズに実施できたという声があった。その一方で、大人数の講義科目では、教室設備の制限もあり、双方向型の授業が実施しにくいという問題点が指摘された。

【教育学研究科・教育学部】

(遠隔授業の取り組み状況)

○授業方法

(学部・大学院共通)

- 1 PandA 経由で Zoom を活用して授業の同時配信を実施。ブレイクアウトルームを活用して、グループディスカッションを授業に取り入れる。チャット機能を活用して、学生からの質問を受け付ける。

講義科目の討論例

ミュート解除、ビデオカメラをオンにして
簡単な自己紹介をしてから始めよう

本日の授業で大事だと思ったこと
疑問に思ったことは

- ・ ランダムに3人組を作って討論
- ・ 教員はグループを巡回し、重要な質問をクラス討論に結びつける
- ・ 対面授業では、いつも同じ隣席の人との討論、あるいは討論相手が決まらない問題を改善

- 2 PandA 経由で教材（動画、講読用資料、PPT、音声など）の提供及び課題を指示し、回収を実施（単にレポート等を提出させるだけではなく、レポートの添削・返却をする、メールで質疑応答をする、教員の出したテーマや学生が提出した小レポートの内容について、PandA のフォーラム（電子掲示板）を用いて討論させ教員もコメントする等、双方向性が担保されるよう実施）。

<工夫した点>

◇教員に対するサポート

(学部・大学院共通)

- ・研究科のコロナ WG と自己点検・評価委員会が共催で実施した研究科セ

ミナー等において、PandA や Zoom の基本的な理解を共有した。

また、遠隔授業関連の情報を研究科内メール通信にて提供し、さらにサポートサイトを立ち上げ、情報を整理して掲載した。

- ・ Zoom を活用して授業の同時配信を行う際に教員から希望があれば、ICT 支援員（大学院生 11 名を雇用）による支援を行い、問い合わせにはオンライン化サポート教員（8 名）が対応した。
- ・ 教員が希望する場合は、ノートパソコンや iPad、スピーカーフォン等の貸し出しを行った。

◇学生に対するサポート

（学部・大学院共通）

- ・ 学生が希望する場合は、ノートパソコンの貸し出しを行った。
同時配信の授業の際、接続不良となる学生を想定し、授業の様子を録画して学生に提供した。
- ・ 教育実習等のやむを得ない事情で授業に参加できなかった学生に対し、授業資料や課題を提供し、授業の録画を用いて、別時間に受講できるような形で学びの機会を提供した。

（大学院）

- ・ 大学院の授業や、より専門的な科目の授業では、履修している学生が保有している資料などをディスカッションの時に共有してもらって、お互いの専門性を生かした授業を行った。

<困った点>

（学部・大学院共通）

- ・ 通信容量不足やインターネット回線が不安定といった受講環境が整わない学生がいた。
- ・ 実習・演習といった対面での実施が重要な科目、特に教職科目における教育実習、教科教育法（模擬授業の実施を含む）のフルオンラインでの実施が困難であった。

（学部）

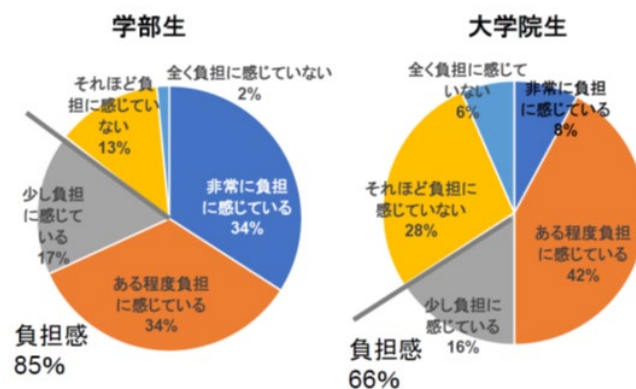
- ・ オンライン授業による負担感は学部生の 85%が感じている。
- ・ 多くの学部生が課題の量が多すぎると回答している。
- ・ 学習時間は増えているが授業内容について理解が深まらなないと回答している。
- ・ オンライン授業による心身の不調について、問題ないと回答した学生は 21%
- ・ 学生同士の交流について、同級生・先輩・後輩とのコミュニケーションが「無い」という回答は教育学部生で 13%

(大学院)

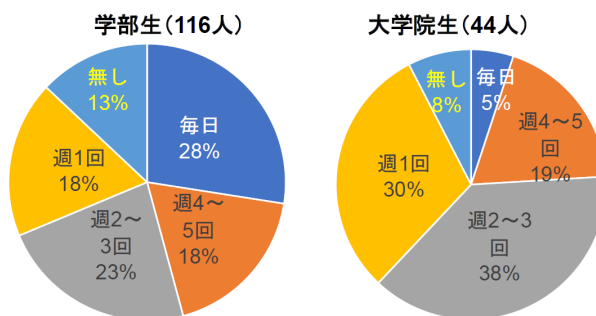
- ・オンライン授業による負担感は大学院生の66%が感じている。
- ・オンライン授業による心身の不調について、問題ないと回答した大学院生は25%
- ・学生同士の交流について、同級生・先輩・後輩とのコミュニケーションが「無い」という回答は大学院生で8%
- ・研究活動への不安を感じる大学院生は約80%に達している。

全学よりも2週間早く、部局アンケートをおこない、問題点を抽出
質問項目を全学に提供
5月26日～6月3日
回答件数：学部生116名（回答率43%）
院生44名（回答率25%）

負担感



同級生・先輩・後輩とのコミュニケーション頻度
(教育学研究科・教育学部による調査 2020.5)



つながりについては、3割ほどは現状維持以上だが、65%はつながりが減った・なくなったと答え、13%はそもそも日常で手一杯との回答

2020年5月実施 「学生向け生活調査」結果より

2020年6月実施 「学生の状況に関するアンケート調査」結果より

(対面授業の取り組み状況)

○授業方法

担当教員の判断により以下の科目は対面授業を実施しているが、一部はハイフレックス型授業※を実施している。

(学部)

- ・教育研究入門Ⅰ・Ⅱ（初年次教育科目）
- ・教職科目のうち、科目名に「〇〇科教育法」が含まれるもの
- ・授業形態が「課題演習」「講読演習」「実習」である科目
- ・授業形態が「講義」である科目のうち、出席者数が20名未満のもの

(大学院)

- ・授業形態が「課題演習」「講読演習」「実習」「研究」である科目
- ・授業形態が「特論」である科目のうち、出席者数が20名未満のもの

※ハイフレックス型授業

教員が対面で授業を行い、学生は対面授業または同期（同時配信）型のオンライン授業のどちらかの形式で受講する形態の授業

<工夫した点>

○感染防止対策

(学部・大学院共通)

- ・各講義室・演習室に飛沫防止用アクリル板、手指用のアルコールジェルを置いた。また、各講義の担当教員やTAに消毒セットを渡して、適宜、机や椅子の消毒を行った。

<困った点>

- ・学生、保護者からの要望

(学部)

- ・感染防止対策を行ったうえで、対面授業を実施していたが、なぜオンライン授業を行わないのかと保護者からクレームがあった。

(大学院)

- ・教育学研究科で対面授業が望ましいとされていた科目をオンラインで実施してほしいと強固に主張してきた社会人学生がおり、対応に苦慮した。

(学部・大学院共通)

- ・収容定員を3分の2とした場合、講義室が不足している。

【薬学研究科・薬学部】

(学部)

- ・後期については学生への希望調査に基づき、3密には絶対的な注意を払いながらも、学生のメンタル面に配慮してハイフレックス型授業を可能な限り取り入れた。具体的には、次の が挙げられる。
- ・講義には、収容定員200名以上の大講義室2つを使用した。

- ・3 回生配当の専門実習は、実験と課題演習（データ整理を含む）を組み合わせたハイブリッド型とした。基礎疾患を有するなど感染に不安を抱える学生には特別配慮をして実習内容のオンライン配信を併用して行った。
- ・また、昼食時間の生協での混雑を緩和するため、3 回生午後の専門実習の開始時間を 13 時 30 分からとした。学生を 2~3 グループに分けたハイブリッド形式とすることにより、対面参加者を実習室の収容定員の 50%以下に抑えた。
- ・ハイフレックス型授業に対応できるように、AV システムのマイク出力をコンピュータに取り込んで Zoom 配信できるようにした。
- ・板書型のハイフレックス授業のために、ビデオカメラを講義室に常備し、ビデオキャプチャーボードを介して映像を取り込めるようにした。
- ・同一時間帯に行われる授業のうち、少なくとも 1 つはオンライン授業にして、すべての学年の学生が同時に構内に来ることがないように工夫した。
- ・前述の通り、3 回生は、薬学専門実習の受講で大学に来る機会があった。したがって、午前中の講義では、1・2 回生配当科目を優先的にハイフレックス型とし、1・2 回生に大学に来る機会を与えるように配慮した。
- ・講義は大講義室を使用し、座席間隔を広くするよう配置し、座席には QR コードを貼り、離着席の管理を行った。

薬学専門実習の様子：実習中の説明

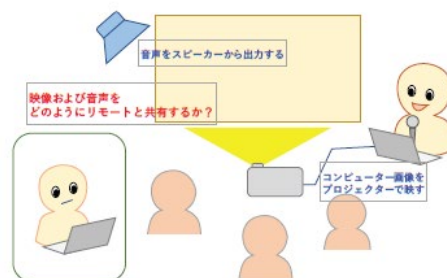


講義室（藤多記念ホール）の様子



着離席管理システムのデータ

ハイフレックス型授業のイメージ



- ・ハイフレックス型授業とオンライン型授業とが連続する場合、休憩時間だけでは自宅と大学とを移動できないので、従来の自習室である 23 講義室、ラーニングコモンスに加えて、24 講義室もオンライン授業用に開放した。また、講義のない時間帯は大講義室も使用してもよいこととした。
- ・講義室入り口に手指消毒用のアルコールを用意するとともに、ウェットティッシュを用意し、各自で机やイスなどを消毒できるよう配置した。

(大学院)

- ・全ての講義はオンラインで実施した。大学院生は研究活動のため研究室に来ているので、講義については特段、対面授業に拘らなかった。
- ・「薬学部大学院授業連絡」という PandA サイトを開設し、全大学院生をこのサイトのユーザーとして登録した。すべてのオンライン授業をこのサイトから提供することによって、履修登録していないコースであっても興味のある講義の聴講が可能であった。

2 遠隔授業及び対面授業の昨年度の参加実績

【医学研究科・医学部】

◆医学科（パーセンテージは、当該科目の履修登録者数に対する割合）

【1 回生科目】

A1 医療情報リテラシー：オンライン開講期間中の月平均 PandA ログイン人数 99.1%

【2 回生科目】

B1 肉眼解剖学：オンライン開講期間中実施した小テスト提出平均人数 90.2%

B4b 組織学実習：対面実習期間中実施した小テスト提出平均人数 91.7%

B6a 神経科学：ハイブリッド開講期間中実施した小テスト提出平均人数 55.3%

B6b 神経解剖学実習：対面実習期間中実施した小テスト提出平均人数 99.1%

【3 回生科目】

B9 病理学総論：オンライン開講期間中実施した小テスト提出平均人数 96.5%

B10 病理学各論：オンライン開講期間中実施した小テスト提出平均人数 96.4%

B12a 法医学：オンライン開講期間中実施した小テスト提出平均人数 73.5%

C9 免疫病学：1/6 オンライン授業終了後の授業アンケート回答数 71.4%

C12 精神医学：2/12 オンライン授業終了後の小テスト提出数 83.8%

【4 回生科目】

C14 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学：オンライン開講期間中実施した小テスト提出平均人数 61.5%

C19 画像診断・臨床腫瘍学：7/6 オンライン授業終了後の授業アンケート回答数 82.5%

C20 医療情報学：オンライン開講期間中の PandA ログイン月平均人数 84.3%

【その他】

Procedure Consult：年間アクセス件数 480 件

CareNetTV 視聴者数：67 名／4～6 回生約 300 名

◆大学院（医学）

- ・講義形式の授業は、対面授業で行う期間とオンラインで行う期間に分かれて行うことはあるが、授業参加率に極端な変化は見られない。オンライン授業の際は ZOOM 上で顔と氏名の表示を原則として実施し、参加を確認している授業が多い。
- ・大学院教育コースの授業は、昨年度オンラインで実施された。コースミーティングは ZOOM で実施し、顔と氏名を学生コーディネーターがチェックして出席を確認した。
- ・リトリートもオンラインで発表が行われ、後日の質問についてはメールで対応する科目もあった。

◆人間健康科学科、人間健康科学系専攻

- ・出席は、対面講義の際は主にカードリーダーで学生証によりカウントしていた。遠隔授業の場合は PandA のクイズ機能や Zoom のチャット機能等で出席を取っている。
- ・科目数が多いため正確な数字は算出してないが、遠隔授業の場合、対面授業よりも参加率が上がった科目が見受けられた。(専門基礎科目、基礎看護学、成人看護学等)

【文学研究科・文学部】

- ・令和2年度前期は原則オンライン授業で、6月19日から段階的にオンラインでは実施困難な科目について対面授業を行った。
- ・令和2年度前期の対面授業履修者数：204名、全体の履修者数は8,421名、対面授業履修者数の割合は2.42%
- ・令和2年度後期は10月1日より活動制限レベルが1に変更となり、授業活動等については「感染拡大の防止に最大限の配慮をした上で、可能なものは通常の形式で実施する。実施可能な感染対策を講じたとしても対面授業を実施することが困難である場合、対面とオンラインの併用又はオンラインのみにより授業を実施する。」となったので、教務企画課へ報告後、2週間の周知期間を経て、11月初旬から可能な範囲で対面授業を行った。
- ・令和2年度後期の対面授業履修者数：2,126名、全体の履修者数は7,649名、対面授業履修者数の割合は27.79%
- ・令和3年度前期は原則対面授業だったが、4月22日～6月20日まで活動制限レベルが「2-」となったため、この期間はオンライン授業を行った。6月21日からは活動制限レベルが1となり、原則対面で授業を実施することとなった。
- ・令和3年度前期のオンライン授業履修者数：304名、対面授業履修者数：7,165、全体の履修者数は7,469名、対面授業履修者数の割合は、95.93%

開講期	対面授業履修者数	オンライン履修者数	全授業履修者数	対面授業履修者数割合
令和2年度前期	204	8217	8421	2.42%
令和2年度後期	2126	5523	7649	27.79%
令和3年度前期	7165	304	7469	95.93%

※令和2年度後期および令和3年度前期の対面授業はハイフレックスを含む。

【教育学研究科・教育学部】

2020年度 教育学部科目 履修者数・単位修得者数一覧					
講義コード	科目名	履修者数	単位修得者数	単位修得率	備考
5015000	Effective Learning Strategies	6	4	67%	
2509000	グループ・カウンセリング演習A(心理学的支援法)	27	26	96%	
2510000	グループ・カウンセリング演習B(心理演習)	24	24	100%	対面授業を実施
7497000	メディア文化学演習I	1	1	100%	
7498000	メディア文化学演習II	2	2	100%	
3147000	メディア文化学概論	50	37	74%	
3700000	メディア文化学専門ゼミナールI	5	4	80%	
3701000	メディア文化学専門ゼミナールII	3	3	100%	
7323000	メディア文化学特論II	3	2	67%	
9184001	英語科教育法 I	19	16	84%	対面授業を実施
9185001	英語科教育法II	14	14	100%	対面授業を実施
4157000	文化政策学専門ゼミナールII	2	1	50%	
2513000	文化政策学特論	17	12	71%	
9110001	民族と教育	107	97	91%	
9167001	理科教育法 I	46	35	76%	対面授業を実施
9168001	理科教育法II	31	26	84%	対面授業を実施
0431000	臨床教育学概論 I	37	28	76%	
0432000	臨床教育学概論II	35	33	94%	
0425000	臨床教育学基礎演習 I	16	13	81%	
0426000	臨床教育学基礎演習II	29	24	83%	
8265000	臨床教育学特論 I	1	1	100%	
8269000	臨床教育人間学演習 I	5	3	60%	
2485000	臨床心理学課題演習(心理的アセスメント)	21	19	90%	対面授業を実施
2511000	臨床心理学研究法演習A	11	11	100%	
2512000	臨床心理学研究法演習B	10	8	80%	
2507000	臨床心理学講読演習A	13	11	85%	
	総計	5566	4693	84%	

※紙面の都合上、提供資料のうち一部の科目を省略（総計は全体数）

2020年度 教育学研究科科目 履修者数・単位修得者数一覧					
講義コード	科目名	履修者数	単位修得者数	単位修得率	備考
6003002	研究開発コロキアム I	25	24	96%	
6004002	研究開発コロキアムII	15	15	100%	
6005000	教育科学基盤演習	36	34	94%	
6006000	学際総合教育科学	38	38	100%	
6007000	教育情報学特論	2	1	50%	対面授業を実施
6008000	Effective Learning Strategies (Advanced)	1	1	100%	
6010000	国際合同授業 I (ベーシック)	3	2	67%	
6122000	国際教育研究フロンティア I	5	5	100%	
6124000	国際教育研究フロンティアIII	2	1	50%	
6132000	大学で教えるということ	1	1	100%	対面授業を実施
6140000	教育実践指導基礎理論 I	2	2	100%	
6141000	教育実践指導基礎理論II	2	2	100%	
6150000	臨床実践指導学研究 I A	6	6	100%	
6151000	臨床実践指導学研究 I B	4	4	100%	
6160000	臨床実践指導学特論II	3	3	100%	
6216000	教育史特論 I	5	5	100%	
6222000	教育学特論 I	4	2	50%	
6232000	比較教育学特論 I	7	5	71%	
6234000	比較教育学特論II	2	2	100%	
6235000	比較教育学特論III	3	3	100%	対面授業を実施
8847000	心理臨床ケースカンファレンスIV	27	27	100%	
8849000	心理臨床ケースカンファレンスVI	16	16	100%	
8860000	心理実践実習・教育現場実習 I A	12	12	100%	
8861000	心理実践実習・教育現場実習 I B	12	12	100%	対面授業を実施
8864000	心の健康教育に関する理論と実践	15	11	73%	
8950000	認知デザイン特論	10	9	90%	
9996000	修士論文	36	32	89%	
	総計	1366	1299	95%	

※紙面の都合上、提供資料のうち一部の科目を省略（総計は全体数）

【薬学研究科・薬学部】

・12月の時点では定期試験をオンラインとハイブリッドの併用で実施予定だったが、1月18日の段階で、すべてオンラインでの実施に変更となった。

○学部試験時間割及び履修登録者数

令和2年度 後期学部科目試験時間割

オンライン										
月 日	配当学年	9:30~11:00	履修者数	教室	13:00~14:30	履修者数	教室	14:45~16:15	履修者数	教室
2月2日(火)	2	薬理学Ⅱ・薬理学1(総論・末梢薬理) 薬理学3(中枢神経薬理) 金子教授	102	藤多+A				物理化学Ⅲ(構造化学) 物理化学3(構造化学) 加藤(博)教授	61	
	3				薬理学Ⅱ(薬物動態学) 薬理学3(薬物動態学) 高倉教授	100	藤多記念ホール			
2月3日(水)	1							生理学Ⅰ(基礎生理学) 生理学1(解剖生理学) 土居教授,山口講師	93	藤多記念ホール
	2	分析化学Ⅱ(放射化学) 分析化学2(放射化学) 小野教授	91	藤多記念ホール						
	3				* 生物化学Ⅴ(細胞生物学) * 生物化学5(細胞生物学) 井埜教授,榎本助教	86	講堂			
2月4日(木)	1	生物化学Ⅰ(物質生化学) 生物化学1(物質生化学) 梶澤准教授	90	講堂+24						
	2	生物化学Ⅲ(分子生物学) 生物化学3(分子生物学) 三宅講師	94	藤多記念ホール	薬理学Ⅰ(製剤学) 薬理学1(溶液製剤論) 高橋准教授	93	藤多記念ホール			
	3				* 物理化学Ⅳ(生物物理化学) * 物理化学4(生物物理化学) 松崎,加藤(博),石濱各教授他	46	講堂			
2月5日(金)	2	天然物薬学Ⅱ(ケミカルバイオロジー) 天然物薬学2(薬用資源学) 掛谷教授	95	藤多記念ホール	有機化学Ⅱ 有機化学2 高須教授	93	藤多記念ホール			
	3				* 有機化学Ⅳ 有機化学4 竹本教授	30	講堂			
2月8日(月)	2	分析化学Ⅲ(機器分析化学) 分析化学3(分光学) 石濱教授,杉山准教授	94	藤多記念ホール				生理学Ⅱ(病態生理学) 生理学3(病態生理学) 平澤准教授	93	
	3	○ 衛生薬学Ⅱ(環境衛生学) ○ 衛生薬学2(環境衛生学) 中山教授	81	講堂						

収容定員 Max	
藤多記念ホール	100
講堂	88
講義室A・C	37
24講義室	33
23講義室	21

※ 「感染防御学Ⅱ[86名]」「生物化学Ⅵ(生理化学)[133名]」「臨床疾病論B[29名]」「臨床疾病論C[22名]」「臨床疾病論E[5名]」「臨床疾病論F[3名]」「基礎創薬研究[46名]」「基礎臨床研究[35名]」はレポートにより実施します。

※ *印の科目は追試験・再試験を行わない。

※ ○印の科目は再試験を行わない。

※ 履修登録を行っていない科目は受験できません。

○大学院履修者数

講義コード	講義科目名 (正式名称)	履修人数
2301000	基盤薬品創製化学演習	21
2302000	基盤薬品機能統御学演習	14
2303000	基盤薬品製剤設計学演習	7
2304000	基盤生体分子薬学演習	9
2305000	基盤生体機能薬学演習	3
2306000	基盤生体情報薬学演習	6
2307000	基盤薬品動態医療薬学演習	3
2308000	基盤病態機能解析学演習	10
2309000	基盤精密有機合成化学演習	4
2310000	基盤生体機能化学演習	8

2312000	基盤神経機能制御学演習	4
2313000	基盤医療薬剤学演習	1
3201000	基盤薬品創製化学実験	21
3202000	基盤薬品機能統御学実験	14
3203000	基盤薬品製剤設計学実験	7
5301000	システム生物学・医薬創成系研究	25
5501000	システム生物学・医薬創成系コンテンツ制作	13
6101000	臨床薬学演習I	1
6102000	臨床薬学演習II	1
6103000	臨床薬学演習III	2
6104000	薬学研究演習I	6
6105000	薬学研究演習II	8
6106000	薬学研究演習III	7
6201000	薬学研究実験I	7
6202000	薬学研究実験II	9
6203000	薬学研究実験III	9
6301000	臨床薬学実習I	1
6302000	臨床薬学実習II	1
6303000	薬学研究実習I	6
6304000	薬学研究実習II	8
7001000	医薬創成研究プロジェクト特論	4
7005000	システム生物学・医薬創成系研究	7
7007000	システム生物学・医薬創成系コンテンツ制作	1
9011000	先端薬科学研究演習I	16
9012000	先端薬科学研究演習II	12
1111000	創薬リード探索技術	16
1210000	基盤有機化学特論II	32
1215000	基盤医療薬科学特論I	51
2314000	基盤薬科学特別演習	90
6004000	臨床薬学特論	4
6005000	薬学研究特論I	2
9013001	先端薬科学特論	13
	合計	636

※紙面の都合上、提供資料のうち一部の講義科目を省略（合計は全体数）

3 遠隔授業及び対面授業を実施してこれまでに明らかになった課題

【医学研究科・医学部】

◆医学科

- ・実習科目については、遠隔授業は困難。
- ・特に臨床実習については、病院構内への立ち入り・患者との接触・電子カルテ閲覧等遠隔実施が特に困難。
- ・講義科目であっても、科目の特性により遠隔授業が困難である科目がある（例：「B12a法医学」Web上で配信することのできない資料が多く、内容も非常にセンシティブであるため学生側の視聴環境にも配慮が必要である）
- ・成績評価について、レポート評価では難しい部分もあり、厳格に知識の修得を促すためには対面形式の試験実施が重要である。
- ・遠隔講義実施の際の技術的サポート体制（ITに詳しい教職員によるサポート）が必須であり、各部局での対応は困難であるため全学としての体制づくりが必要ではないかと考えられる。

◆大学院（医学）

- ・対面授業とオンライン授業を同時に行うハイブリッド授業を実施する場合は、教員が対面の学生とオンライン参加の学生の両方に同時に対応する必要があるため実施が難しい面がある。

◆人間健康科学科、人間健康科学系専攻

- ・実習、実験、演習科目については、遠隔授業は困難。
- ・遠隔授業の場合、学生の参加状況や反応が分かりづらく、授業進行が難しい。
- ・遠隔授業の場合、学生によってネット環境や機器類の状況が異なるため、格差が生じる。

【文学研究科・文学部】

オンライン授業は、授業中に教員と学生、あるいは学生どうしのコミュニケーションが取りづらいということと同時に、すべての授業がオンラインになってしまうと、毎日の学生生活の中での学生同士のつながりが、「希薄」を乗り越えて「ほとんど皆無」に近くなっていることが大きな問題点としてあげられる。

また、講義内容に対する学生の関心度はもちろん、理解度についても、少し慣れた教員であれば、対面している学生の雰囲気からそれを把握しながら授業を進めるものであるが、オンラインであるとそれが全くできないことも、オンライン授業の大きなデメリットであると考えられる。オンライン授業の利点は無数あるわけだが、文学の教育は、Zoomを使って「見えて、聞こえればよい」ということにとどまるものではなく、小さな演習室などで、空間と時間を濃密に共有しつつ、行われるのが望ましいというのは一

致した意見であると思われる。文学の自由な学問は、個人の沈思黙考のみならず、そのような談論風発の空間で培われてきた。コンピュータ内の孤独な世界は、それとは相容れない。

なお、学生の教育は、教員による講義や演習などの授業だけではなく、学生研究室における日常的な研究室内での上級生（大学院生）との交流によって、学問の基礎的な部分（調べものの仕方など）を自然に学んでいくと同時に、いろいろな方面での知識を吸収するというのが文学の教育の一つの重要なスタイルであったが、一時期「研究室にはできるだけ出てこないように」という指示を出すことになり、そのスタイルでの学生の学習が全くなされなかったことは、大きな打撃であった。また、オンライン授業自体ではないが、学会の集まりなどもほとんどがオンラインとなり、対面ではなくなったことにより、特に学生が研究者集団の中での孤独感を強めていることや、さらには学生が「自身の研究が社会にとっては何の役にも立っていないのではないか」という絶望感を持っているなど、国内外のフィールドワークや資料調査に行けないなどの直接的な研究活動への影響だけでなく、すべてがオンライン化していくことによりとりわけ学生には深刻な影響が出ていることは特記すべきかと思われる。

加えて、教員の負担増になったことは、今後のオンライン授業を考える上で重要な問題である。対面授業を行って、なおかつ対面授業に出られない学生へも Zoom 録画でオンデマンド配信などを行った昨年度後期にはそれがさらに顕著であったと思われる。具体的には、オンライン授業の準備のために、普段の紙の資料とは異なって、パワーポイントの資料を作るなどで時間を取られるということがまず第一に挙げられる。さらに、Zoom では「板書」をすることがむずかしく、(教室の状況によっては、直接黒板をカメラで写すことで対応できる場合もあったが) 板書する事柄をあらかじめパワーポイントなどに映像化するなどの工夫も必要になった。また、定期試験が対面で行えないという状況下では、学期末のレポート試験のみでは評価をするのがむずかしいことから、随時課題を出すことになり、その採点にも時間を取られるということもあった。

オンラインを授業に活用する上で、現在の大学は対面を基本として設計されているので、現在の教室設備は、オンラインと対面を両立させ得る配信拠点に必ずしもふさわしくない。設備の改善が必要であろう。また、オンライン配信をサポートする部門を各部局に増設する、さらに TA を教員一人一人に割り当てるなど、ソフト・ハード両面での強化が望まれる。

【教育学研究科・教育学部】

・コミュニケーション不足

学生と教員のざっくばらんなコミュニケーションや学生同士のコミュニケーションが不足しており、メンタルヘルスに関わる問題が生じている。

・授業実施方法

学生によってはオンライン授業では質疑応答がしにくいとの意見や、課題の量が多すぎて、学習時間は増えているが授業内容について理解が深まらないといった意見もある。

【薬学研究科・薬学部】

- ・講義準備（事前学習の教材収録、資料の著作権問題）の負担が大きい。
- ・オンライン授業では学生の表情や動作がわからないので、理解度を確認しながら講義を進めることができない。
- ・ハイフレックス型の場合、対面とオンラインの両受講者に対して同時に気を配ることができない。オンライン参加の学生に対しての対応がおざなりになる。
- ・学生側は、長時間画面を見つめていることになり、疲労がたまる。集中力も持続できないようである。
- ・実技を伴う実習や、グループワークを行う演習は、オンライン形式では十分対応しきれない。
- ・リアルタイム授業では、学生のネットワーク環境が問題となる。集合住宅では帯域が狭くなって通信障害が起こり、満足に授業を受けられないことがある。
- ・京大全体で Zoom や PandA に依存しているので、トラブルがあると大変である。春先にはネットワークがダウンすることも多々あった。オンライン試験中にトラブルがあった科目もあると聞いている。

4 コロナ禍での学生のメンタルケア

【医学研究科・医学部】

◆医学科

- ①新入生について、必修科目の課題提出状況・試験受験状況等を確認し、問題の早期把握に努めた。
 - 教員が面談を実施。
 - 保護者にも通知して情報共有。
 - 定期的に教員面談を実施してフォローアップ。
 - 事務方も履修状況をモニタしてフォローアップ。
 - 特に新入生については、履修する科目のほとんどが全学共通科目であり、それらの出席状況・履修状況把握にあたっては、国際高等教育院との連携が必要である。
- ②10月に「新入生交流会」を開催。
 - 新入生を3グループ・時間帯に分けて実施。
 - 上回生がメンターとなり、新入生同士が気軽に会話をして友人作りができるようサポート。
- ③医学部公認団体への加入サポート。
 - 新学期に公認団体紹介冊子を新入生全員に郵送。
 - 上記「新入生交流会」でも更新版を配付、部活動紹介の時間を設けて加入を促進。

◆大学院（医学）

- ・学生の所属分野の教員(主に指導教員)が日常のメンタルケアを実施している。

◆人間健康科学科

- ・チューター教員から定期的に連絡し、履修状況や生活状況についてヒアリングを実施した。
- ・10月に新入生交流会を対面で実施した。



新入生交流会のご案内

京都大学医学部医学科

2020年度 新入生交流会のご案内

■日時

- ① 2020年10月8日(水) 16時30分～17時30分
- ② 2020年10月9日(金) 18時15分～19時15分
- ③ 2020年10月9日(金) 19時45分～20時45分

※各自が参加する日程については、「新入生交流会名簿」を確認ください。

※受付は開始10分前からです。受付開始前に会場に来るのをお勧めします。

■場所

定章会館2階 山内ホール

■持ち物

マスク、筆記用具

令和2年10月14日

学部1回生 各位

学生厚生支援委員長 橋本 晴

人間健康科学科 学部1回生 交流会のお知らせ

コロナ禍の中、後援が地まりました。1回生のみなさまにおかれましては、当面授業が一部再開し、他だいたい1日休校していることと申します。4月に学期のガイダンスが中止となってから、学長と知り合うことが難しい状況を見て、このたび、対面での1回生交流会を開催しました。先輩学生も参加予定です。ぜひご参加ください。毎に取の予定がある方や、遠方で来学が難しい方は無理に出席する必要はありませんので、ご安心ください。

日 時：10月29日(木) 18時半～19時半(18時から入場可)

場 所：人間健康科学科棟

第①提携室(①～②グループ)、第②提携室(③～④グループ)

第③提携室(⑤、⑥グループ)

グループは別紙添付してあります。

内 容：先輩学生の巻頭の巻、グループごとフリートーク

※30分グループをシャッフルしてフリートーク

【参加にあたっての注意事項】

- ・文庫館の2階(10月15日(木))から別紙の体調・行動記録シートを記入し、当日持参してください。
- ・当日体調不良(発熱、咳、息苦しさ、味覚嗅覚異常)の場合は参加できません。また、2週間以内の新型コロナウイルスに感染、もしくは濃厚接触者になった方は参加できません。
- ・当日はマスクを着用し、提携室入口で体調・行動記録シートを提出してください。
- ・提携室入口で検温を実施します。37.5度以上の場合は参加できません。
- ・提携室内での飲食は禁止します。(水分補給は必要に応じて可能です。)
- ・自分の席は、使用後に消毒用ワイプで消毒してください。
- ・交流終了後、提携室の現状を速にご確認ください。
- ・終了後は、すみやかに別紙を返してください。

問い合わせ先：人間健康科学科 Q75-753-9313、9314
 090-9529-4900(メール:09a22ad@kyoto-u.ac.jp)

【文学研究科・文学部】

- ・学生支援委員会のクラス担当教員によって、一回生向けのオンライン茶話会を2020年5月23日に実施した。クラス毎に先輩にも参加を依頼し、学修・生活面へのアドバイスを受ける機会を設けた。
- ・文学部・文学研究科には臨床心理士による相談室と、オーバードクターによる先輩相談室が設けられており、そこでもオンライン茶話会など、数々の取り組みを行った。

◆文学部1回生向けオンライン茶話会 報告書(抜粋)

- 日時：2020年5月23日(土) 13時から16時
(前半 13:00-14:00、後半 14:30-15:30)
※クラスにより多少延長
- 参加者：前半 85名、後半 67名、合計 152名(1回生 223名の68%に相当)
メンター学生6クラス12名、学生支援委員の教員6名
Wi-Fiが不安定だったりLoginが上手くできなかったりといった技術的な問題により参加できなかった学生が数名いた。また告知から開催までが4日間しかなかったため、それも出席率に影響を及ぼしたと考えられる。
1. 本茶話会に対する期待と評価は、かなり高かった(p12)。クラス内部の交流が図れたことに加えて、文学部の雰囲気、レポート、留学、サークル、アルバイトなどの情報を先輩から聞くことができ、学生生活のビジョンを持てたという点も評価されている。対面授業が始まっていないなかで、交流と情報収集の機会を設けることは必要である。すでにグループラインを持っているクラスもあるが、全員参加ではなく、業務連絡が主で、交流は少ない。
 2. 浮き彫りになった問題の1つは、適度な課題についてである。具体的に、「10日間で13課題」「課題の多さに不安」「土日もフルで使わないと終わらない」「徹夜続き」「図書館の利用が制限され、どうしてもいいかわからない」など。オンライン授業の評価は通常点ではなく、課題量になる悪いのかと懸念されるが、詳細は明らかではない。なお、同様の指摘は他大学でもみられる。負担を個人的意見として処理するのではなく、詳細な実態把握と検討が必要である。
 3. 十分なオリエンテーションの機会がなく、他の学生との相互コミュニケーションが取れていないため、情報共有ができず孤立とした教務上・学習上の不安を抱えている者が多い。科目の履修選択のあり方やレポートの書き方についても、通常であれば学生間のコミュニケーションを通じて「適切」かどうかの確認されるのだから、横のコミュニケーションがなく、不安が生じている。
 4. この2か月の意味付けについて(p19)、学生の意見は肯定/否定の双方に割れている。「自分を見つめなおす」「読書」「趣味」「スキルアップ」の期間として肯定的に評した学生がいる一方、「不安」「寂しい」「孤立」などの孤立、「学習の習慣を失った」「大学生生活の不安」を訴える声もいた。肯定と否定を分ける理由がどのような社会環境要因なのかは検討が必要である。また、授業が始まってからは生活が大きく変わっているが、この変化を積極的に対処しようとする者も多かった。
 5. 学生からの質問に対しては、フォーラムやお知らせで返信する予定である。また、6月にも茶話会を計画中である。
 6. メンターにとっていい経験だったようである。「ファシリテートすることの難しさを知った。これからは大学教員をもっと尊敬したい」といった意見もあった。

以上、文学部学生支援委員会(2020年5月28日)

文学研究科・文学部相談室
オンライン茶話会
始めます

初回は
8/21(金)
14~15時

新入生から
大学院生まで
大歓迎!

オンライン
(Zoom)
で開催します

学部の人たちと、とにかく自由に話してみませんか?
1回のみ・参加したい時だけ・途中入室もOK!
相談室を利用しなくてももちろんOK!
それぞれつづらねながらご参加ください♪

対象：文学部・文学研究科の学部生・院生(院生でもOK)
日時：毎週金曜日 14~15時(曜日・時間等は学務状況により変更の可能性あり)
開催条件：学生のうち2名以上の参加申込がある時に開催します
参加方法：【事前申込制】相談室までメール・申し込みフォーム・電話で氏名・学年・専修・メールアドレス・参加希望日をお知らせください。後日、相談室からメールにて参加用のZoomのURLを送ります。

申し込み・お問い合わせ
京都大学文学研究科・文学部相談室
(総合研究2号館2階)
☎ 075-753-2723 (授業日のみ対応可)
✉ bun-soudan@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
開室日時：毎週水曜～金曜 10時～17時

【教育学研究科・教育学部】

令和2年度においては、学生の学内での人間関係形成のため、新入生を対象としたZoomによる交流会や懇談会、教員・研究室紹介などを実施した。また、新入生が孤独を感じていないか等調査するため、全学ならびに部局において学生アンケートを実施し、心身不調等の状況把握に努めた。(2020年5月に研究科、2020年6月に大学全体のアンケートを実施)

各教員が身近で接する学生に対して、目配り・心配りを行うよう教授会場で共通認識を図っている。

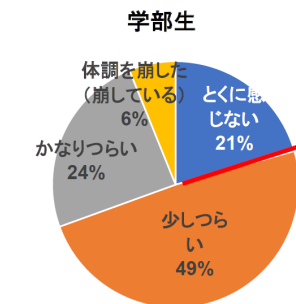
身体の不調

全学による学生状況調査

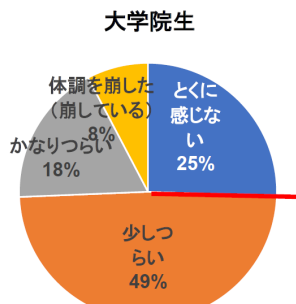
→6月11日～6月30日

→回答件数：学部生132名(回答率49%)

院生40名(回答率23%)



身体不調79%



身体不調75%

【薬学研究科・薬学部】

- ・オンライン茶話会を年に数回開催し、学年を超えて交流する機会を提供した。
- ・後期開始後に1～3回生対象にガイダンスを開催した。
- ・薬学部では1学年約10人を1グループとし、基幹講座の講師以上の教員が担任を務める制度をとっており、グループ担任には学生と密にコンタクトを取るよう依頼し、そのコンテンツの1つとしてPandAに各学年毎のグループサイトを設置し、円滑に学生と連絡が取れるよう活用した。

令和3年度グループ担任（アドバイザー）について

教務委員会

標記について、1～3回生に対し、1学年約10人を1グループとし、基幹講座の講師以上の教員が1名、各グループ担任をするものです。学生グループは3年間メンバーを固定し、同一教員がそのグループを3年間担当することを原則とします。

グループ担任制度の主な目的は以下のとおりです。

- ・学生に対しきめ細かい学習（履修）指導を行う。
- ・学生生活一般に関わる相談窓口となり、また進路等に関するアドバイスをを行う。（必要に応じて、学生委員、就職委員等への橋渡しを務める）
- ・教員と学生間の距離感を縮め、コミュニケーションを円滑化する。これを通じて、学生側より、学習内容、制度等に対する生の意見を汲み上げ、教育内容等の改善に役立てる。

以上を円滑に実施するため、単位修得状況の悪い学生（2回生進学时に30単位以下、3回生進学时に60単位以下）を呼出し、面談を実施してください。また、これ以外にも、グループ担任の教員には個人的な相談を学生より随時受け付け、アドバイスを行っていただきます。

本年度のグループ担任の担当は以下のとおりです。

	1 回 生	2 回 生	3 回 生
1グループ	大野教授 (ケミカル・薬品有機製造学)	掛谷教授 (システムケモセラピー)	松崎教授 (薬品機能解析学)
2グループ	服部准教授 (システムケモセラピー)	津田講師 (統合薬学教育開発センタ)	加藤教授 (構造生物薬学)
3グループ	中准教授 (薬品分子化学)	高須教授 (薬品合成化学)	柿澤准教授 (生体分子認識学)
4グループ	星野准教授 (薬品機能解析学)	竹本教授 (薬品分子化学)	山下教授 (実践臨床薬学分野)
5グループ	杉山准教授 (製剤機能解析学)	平澤准教授 (薬理ケミカル・ケミカル創薬科学)	渡邊講師 (病態機能分析学)
6グループ	申准教授 (生体情報制御学)	石濱教授 (製剤機能解析学)	高橋准教授 (病態情報薬学)
7グループ	米澤准教授 (臨床薬学教育)	中山教授 (生体情報制御学)	白川准教授 (生体機能解析学)
8グループ	小野教授 (病態機能分析学)	金子教授 (生体機能解析学)	山口講師 (システムバイオロジー)

※太文字が新規担当者。

※学生を1～8グループに均等割する。

(参考) 特色入試チューター

3回生（平成31年度入学）：松崎教授

2回生（令和2年度入学）：竹本教授

1回生（令和3年度入学）：金子教授

5 オンラインと対面の双方を組み合わせたコロナ禍終息後の新しい授業への展望

【医学研究科・医学部】

◆医学科

- ・対面授業をオンラインで配信するハイブリッド授業についての経験を生かせる授業方法として「反転授業」が挙げられる。(反転授業→教室で行う講義を、ビデオを用いて自宅であらかじめ学生に視聴させ、教室では演習や発展的内容を行う授業形態)
- ・医学部においては、令和3年度に、医学教育・国際化推進センターの山本講師が「C19 画像診断・臨床腫瘍学」の中で実施している。
- ・授業資料・講義動画をポータルサイトに掲載していつでも参照できる体制をとったことにより、学生がいつでも復習ができるという学習効果が期待できる。
- ・今後、過去の講義資料・動画の蓄積により、教員側にノウハウが蓄積され、余裕ができれば、上記反転授業等の授業実施方法の工夫を推進することができる。このことにより学生側に学習効果の向上が見られれば、授業数の削減等、カリキュラム全体の改革につながることを期待される。

◆大学院（医学）

- ・教員からはハイブリッド授業は非常にやりにくいという意見が多い。対面授業をおこなっていて同時にオンライン参加学生に配慮していくのは困難が伴う。ハイブリッド授業を実施するためには、担当教員が相応のスキルを身に着ける必要があると思われる。
- ・オンライン授業実施が継続して可能となれば、授業の幅が広がる事が期待される。例えば、遠隔地の研究所等の高度なセミナーを大学院の授業に取り入れていくことが可能となる。

◆人間健康科学科、人間健康科学系専攻

- ・遠隔地の講師による授業が可能となり、対面のみでは得られない質の高い授業が実施できる。
- ・他の校舎やキャンパスの講義を受けやすくなる。
- ・オンデマンドなどの同時活用により、予習・復習による学習効果の期待ができる。
- ・小グループでの **discussion** をブレイクアウトルーム等で行った場合、別のグループの意見が聞こえないので、各グループで個別性の高い意見を出すことができる。
- ・反転授業を展開できることで、教員が学生の習得度の向上およびその評価判定に時間を割くことができる。
- ・クイズ機能や投票機能を随時利用することで、リアルタイムに学生の意見を収集し、講義の展開に反映させることができる。
- ・ロールプレイの実施が容易になる。

- ・知識の伝達や解説などを繰り返し視聴する授業内容に関してはオンライン（オンデマンド）の方が、学習効果が高いと考えられる。

【文学研究科・文学部】

- ・海外の教師による授業、遠隔地に在住する学生の参加という、これまでは何らかの特別な手立てを講じねばならなかった授業を、より簡便に実施することが可能となり、すでに積極的にこのような形態を活用している教員も少なくない。
- ・長期間本務を離れることが困難であった著名な研究者にも授業を依頼することで、学生たちに刺激を与えることも可能である。
- ・遠隔地在住だけでなく、様々な理由で通学が困難であった学生も、授業参加が可能になるメリットもある。
- ・授業資料を紙で印刷するのではなく、オンラインを活用することで、より鮮明な資料提示が可能となる場合がある。ただし、そこには著作権や所有権の問題が付随するので、注意が必要である。
- ・また、今年度から文学研究科で始まった、東大人文社会系研究科（本郷）との相互の学生交流（研究指導と授業履修）も、対面とオンラインを併用する授業形態により、スムーズに走り出している。
- ・すべての授業がオンラインに相応しい訳ではないが、例えば入門科目などはオンデマンド型で学生が曜日講時に縛られず受講できるような形態を導入すれば、少人数の演習準備や研究に効率的な時間を使うことも可能になるかもしれない。

【教育学研究科・教育学部】

（教育効果）

- ・グループワークの際に、グループ間の干渉（他のグループの声が聞こえてしまう）がまったくない形で議論する必要がある時に、Zoomのブレイクアウトルームを活用すると効果的に授業を進められる。
- ・口頭での議論ではなく、文字ベースでの議論がふさわしい授業内容の場合、Googleドキュメント等への同時編集により、（口頭での議論を実質的に禁止した形で）文字ベースでの議論を行える。また、文章の形で残るので、振り返りによる学習効果が生まれる。
- ・大人数の講義では、対面授業と比較して、Zoomのチャット機能等の活用により、受講生の発言が増えることがある。
- ・履修している学生が保有している多彩な資料などをディスカッションの時に共有することができ、お互いの専門性を生かした授業が可能となる。
- ・オンライン活用により、口頭で意見を述べるのに躊躇する学生が意見を述べやすい環境を作ることができる。

- ・授業中にオンラインで回答を収集し、その結果をすぐに図化・グラフ化して見せることで、人数の多い授業でも、学生がより主体的に授業に参加している感覚を持つことができる。

(国際交流)

- ・外国等遠方に住んでいる、または、スケジュール的に招聘が困難であった外部講師や専門家を非常勤講師やゲスト講師として講義を依頼することが可能となり、学生が多くの知を得る機会を持てる。
- ・外国の大学の学生との合同授業を開催できる。遠方の大学であっても、交流が容易となる。

【薬学研究科・薬学部】

- ・オンラインの利用で、外部講師や海外の研究者からの講義や特別講演などを導入しやすくなる。
- ・通学が困難な学生や体調不良で一時的に通学できない学生のために、ハイフレックス授業を提供するのは当該学生にとってメリットがある。
- ・授業の録画と動画の提供は、学生の復習・自主学習に役立つ。

監事意見

■コロナ禍での教育の現状とコロナ禍終息後の教育の在り方について

教育の現状について

- 昨年度からの1年半に渡るオンライン授業開講と、対面授業とのハイフレックス型授業ないしハイブリッド型授業開講等の様々な取り組みを紹介頂いて、教員側、学生側の対応も各学部・研究科ごとに工夫され、実施された様子を伺う大切な機会となった。こうしたオンライン授業実施のための教室の整備や技術的なサポートの全学的な支援が、今必要とされている。早急に全学的に取り組むべき課題であろう。

- コロナ禍における学生のメンタルケアについては、特に一回生に向けて、各学部が努力されて来ているが、多くの学部で実施されている小グループに分けてのグループ担任制やチューター制度が、学生対応として機能しているようである。かつての「学生の自主性」にまかせるだけの対応からは、格段に進歩した対応として評価できる。

新しい授業への展望について

- 授業方法の開発：
この1年半のオンライン授業の経験と蓄積によって、まず、これらの蓄積された授業の予習・復習教材としての活用の道が開かれているようである。さらに、一方向的になりやすいオンライン授業で、参加型授業への転換が諮られたり、授業評価の在り方を変える試みが始まっている。また、ハイブリッド型授業の開発、反転授業の試み等、新しい授業形態の可能性が追求されようとしている。こうした試みが、単に、学生の知識を増やすだけでなく、学生の持てる能力を引き出す授業への改善につながることを期待したい。

- 新しいオンライン方式の活用：
コロナ禍で、様々な活動がオンライン化されてきた中で、大学でのオンラインを通しての活動の幅も広がっているようである。今回の調査においても、著名な学外者による講演が頼みやすくなった、また海外からの集中講義が可能になったとの声が聞かれた。また、他大学との共同セミナーや、海外の大学との交流事業が容易になったとの報告もあった。これらの活動によって京都大学の対外的な活動が、さらに活発となることが期待される。